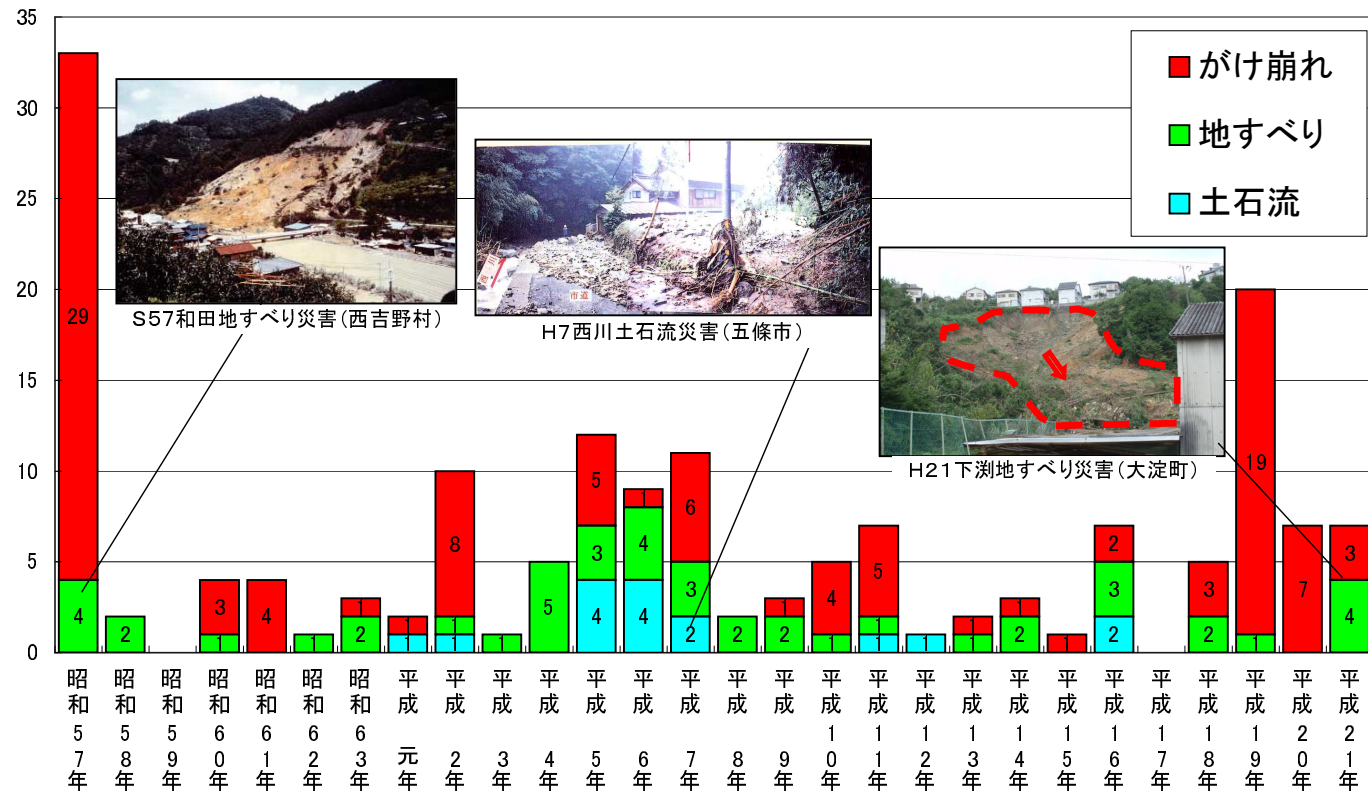


奈良県における土砂災害対策の現状

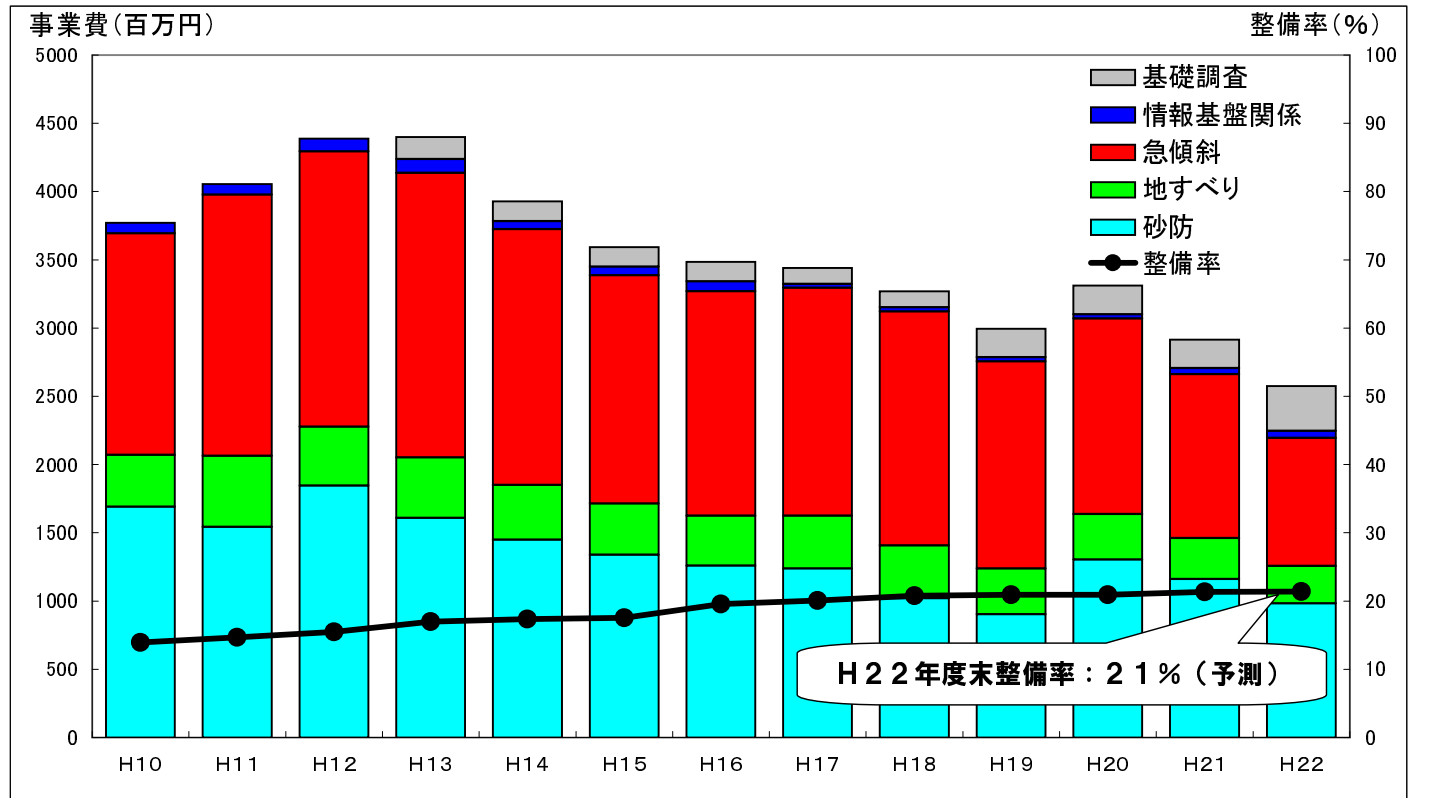
○奈良県における土砂災害発生状況



○土砂災害危険箇所の現状

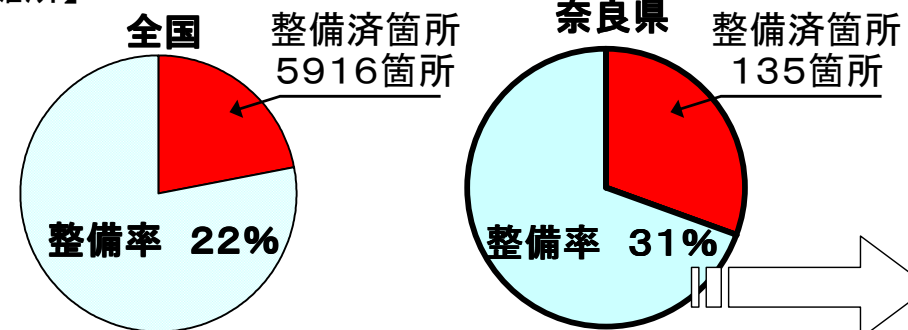
| 区分 | 土砂災害危険箇所 | | |
|------------------|--------------------------|----------|--------------------------------|
| | 土石流危険渓流 | 地すべり危険箇所 | 急傾斜地崩壊危険箇所 |
| 危険箇所 | | | |
| 危険箇所数 | 3,136 渓流 | 106 箇所 | 4,944 箇所 |
| | 土砂災害危険箇所 計 8,186 箇所 | | |
| 施設整備対象箇所 (要対策箇所) | 1,136 渓流 ※人家5戸以上の危険渓流 | 106 箇所 | 1,289 箇所 ※人家5戸以上の危険箇所 ※自然斜面 |
| | 2,531 箇所 | | |
| 整備箇所数 | 137 渓流 | 33 箇所 | 378 箇所 |
| | 548 箇所 | | |
| 整備率 | 12 % | 31 % | 29 % |
| | 21.7 % | | |

○砂防関係事業予算額（当初予算ベース）と整備率の推移



○防災上重要施設（避難所、災害時要援護者関連施設）の保全状況

【避難所】

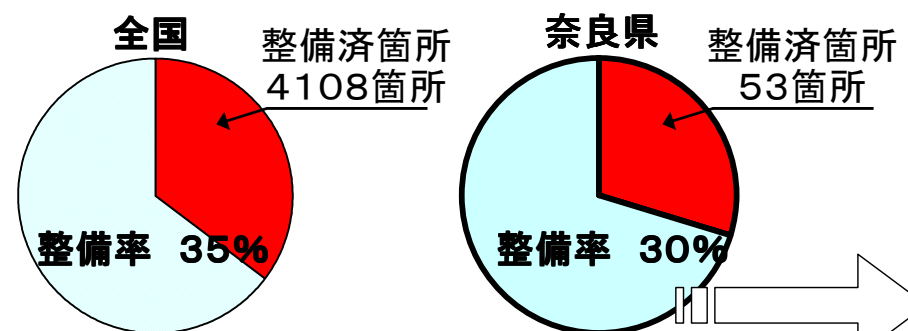


優先的に保全する避難所
・”代替性のない避難所”を市町村協議により抽出

41箇所

※概ね5箇年で保全予定

【災害時要援護者関連施設】



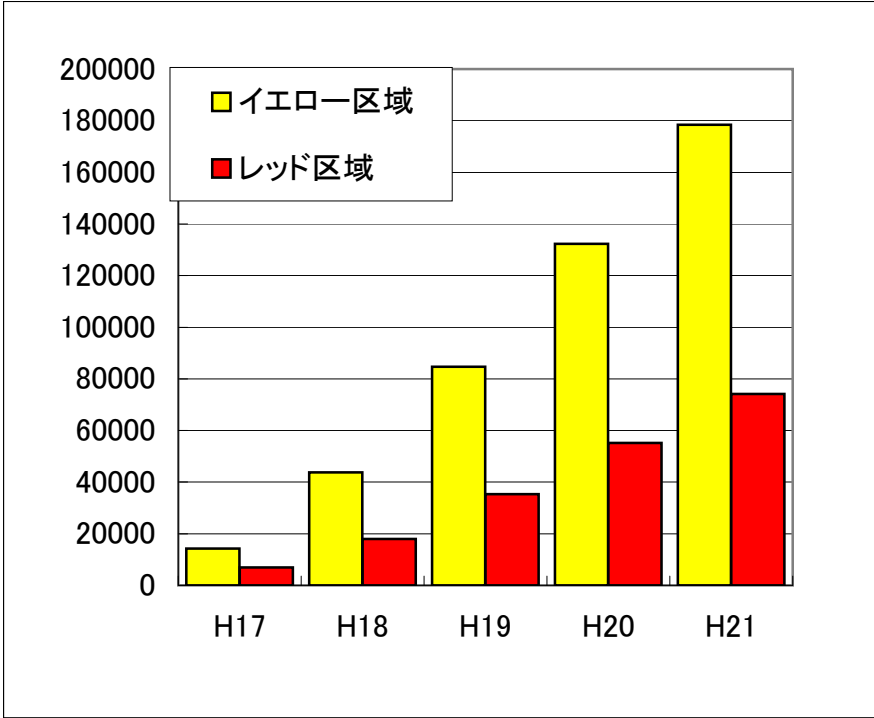
優先的に保全する施設
・”24時間入居者のいる施設”を抽出

20箇所

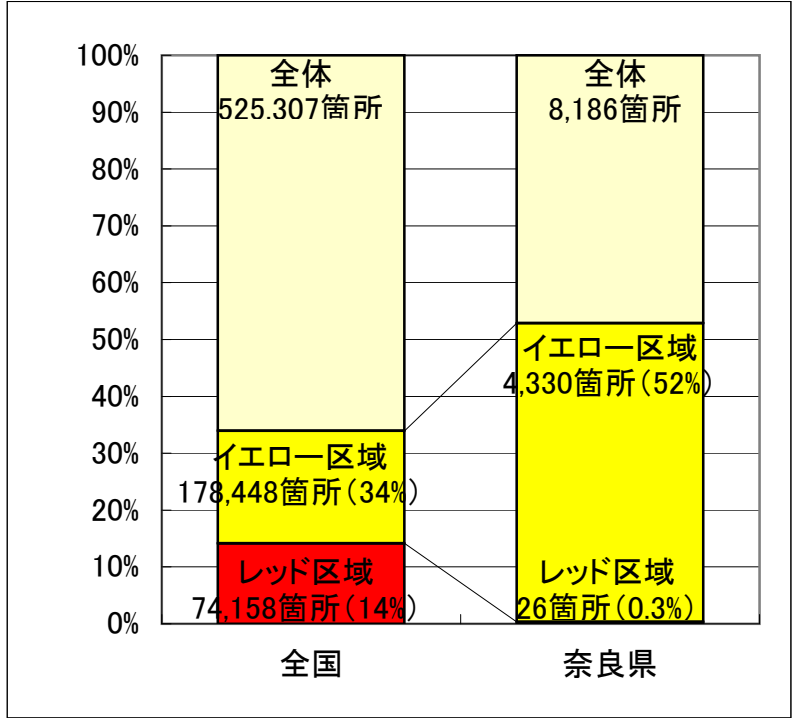
(内5箇所は保全済)
※概ね5箇年で保全予定

奈良県における土砂災害対策のソフト対策の現状と今後の目標

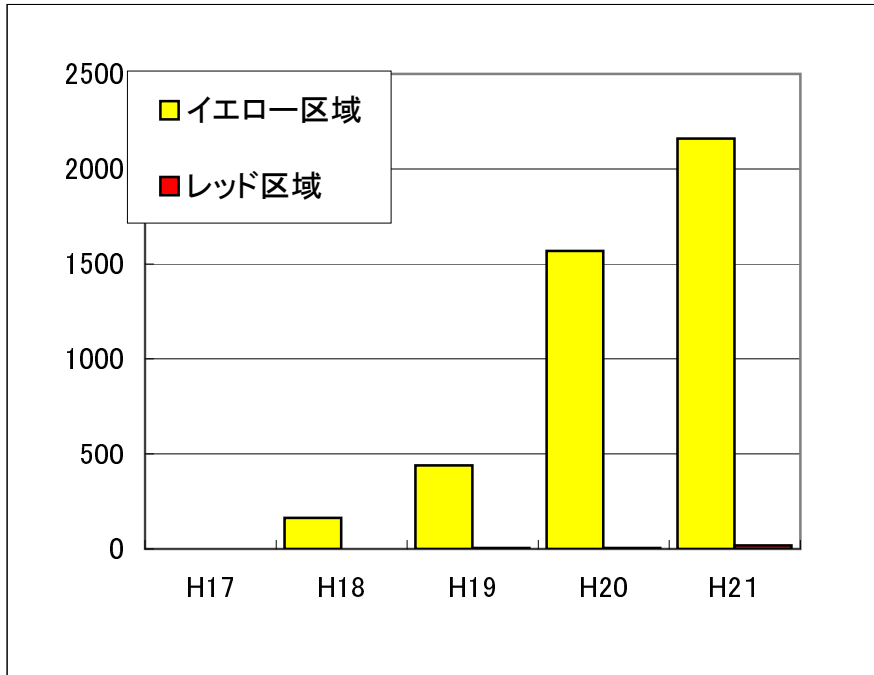
● イエロー区域等の指定状況と今後の目標



全国の区域指定の推移



全国と奈良県の区域の指定の状況
(平成22年 3月末現在)



奈良県の区域指定の推移

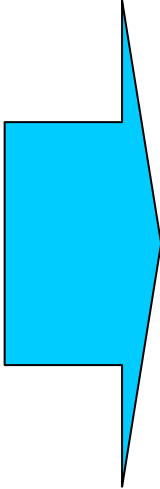
- 【従前の指定の方針】**
- イエロー区域の指定を先行し、地域の警戒避難体制の確立を優先
 - レッド区域の指定はイエロー区域の指定完了後に移行する

【今後の方針】
イエロー区域に併せ**レッド区域の指定**を進め、危険な箇所への新たな開発抑制を図る

レッド区域の指定目標
0.3% (H21年度) → 15% (H25年度)

| 年度 | レッド区域 |
|--------|-------------|
| H21年度末 | 26箇所 (0.3%) |
| H25年度 | 約1,300箇所 |

※H21年度 50箇所指定
H22年度 200箇所指定
H23～25年度 350箇所/年指定



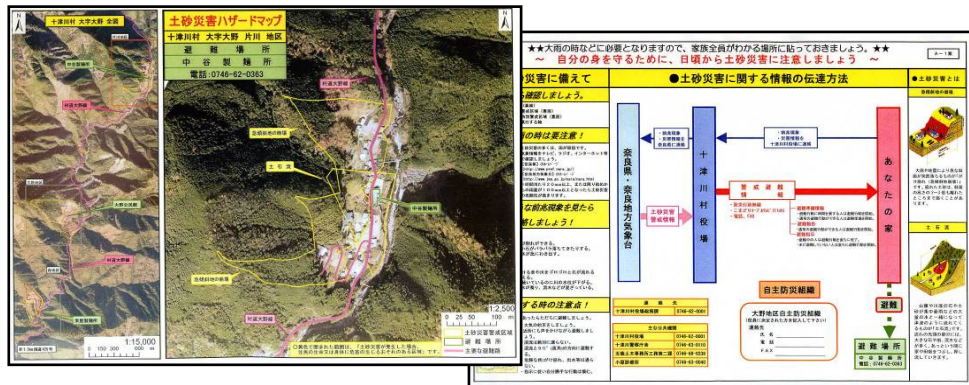
市町村における土砂災害に対するソフト対策の取り組み状況

ハザードマップ

- ・全危険箇所配布完了 : 上北山村
- ・一部の地域で配布 : 十津川村、御所市、王寺町、桜井市
- ・未整備 : 28市町村

【県の支援】

- H21年度
 - ・各市町村毎のマップ様式作成(検討用資料としてデータ提供)
 - ・各市町村毎のモデルマップ作成(検討用資料としてデータ提供)
- H22年度
 - ・全箇所のマップデータを作成し市町村に提供



ハザードマップ(例)

防災訓練

- ・実施 (～H20年度) : 奈良市、川上村、上北山村、下北山村、十津川村
- ・実施 (H21年度) : 生駒市、桜井市、葛城市、五條市、曾爾村
- ・実施予定 (H22年度) : 天理市、生駒市、御所市、桜井市、宇陀市、平群町、下市町、十津川村

【県の支援】

- ・「土砂災害・防災訓練マニュアル」作成 市町村へ提供

市町村における土砂災害ハザードマップ作成状況

『見える化』イメージ = ホームページで公開

- 作成・配布 完了
- 一部で作成・配布
- 未整備

王寺町
H21年度 一部配布
(危険箇所 1箇所)

桜井市
H21年度 一部配布
(危険箇所 1箇所)

御所市
H21年度 一部配布
(危険箇所 1箇所)

十津川村
H20年度 一部配布
(危険箇所 17箇所)

上北山村
H19年度 配布完了
(危険箇所 52箇所)

